日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	ボイストレーニング４

科目基礎情報

開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	後期
対象年次	２年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	１単位	授業形態	実習		
教科書/教材	必要な場合のみ資料を配布する				

担当教員情報

担当教員	平山　MiHO　金森	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン、ダンサー

学習目的

声はヴォーカリストとして歌う際に他者へ印象を与えることが出来るとても大きな役割を成している。よく響き通る声を出せる事それだけでも大きな説得力を与えることが出来る。その為に基礎となる発音、口を大きく開けることから始まり、母音の発音をしっかりと身に付けこれに子音を乗せ音域を広げていくことで、安定した声を身に付けることが出来る。そして、声帯の筋肉を鍛える上でどういう理由があって鍛えているのかを理解して各部分のトレーニングを行うことで、継続的に続ける事ができ、更に効果を上げる事が出来る。他者の声を聞く事で事で自分とは何が違うのかを意識させ、より探究心を持ってボイストレーニングを学ぶことを目的とする。

到達目標

ヴォーカリストとして仕事をする際に必要になってくるボイストレーニングを正しい方法、又は正しい方向で行う為に自身の改善点をきちんと理解する事が重要である。正しい発声方法を身に着けることが出来れば、歌唱力は必ず伸びるものである。これを確認する為にテクニックとスタイルの授業で自身に必要な課題を組み込んだ楽曲を一曲選曲し、オーディエンスの前で披露する。その際、自身が課題と認識している点をきちんと伝えて発表する事をこの授業の到達目標とする。

教育方法等

授業概要	前期に身に付けた基礎知識を更に深め、それに加えてフェイクやビブラート等のスタイルの部分を学んで行く。後期ではリズムトレーニングをしっかり行い様々なBPMに対応できるようにする。更に日本語とは口腔内を広く使わず発せられる言語故ポジションが大きくさがってしまい共鳴するポジションから離れてしまうことで喉への負担をかけている。共鳴するポジションを各自身に付けた上で様々なトレーニングを行っていく。卒業進級公演に備えて、歌唱時のパフォーマンス力を鍛えるためにダンス教育も行なっていく。
注意点	必要以外のスマホ等の操作は厳禁とする。発声器官の保湿と保護及び、風邪など空気感染症の生徒間感染を予防する為、飲料を持参する。ダンスの際には運動できる服装とシューズを持参の事。授業時数の3/4を出席しないものは実技試験を受験できない。

	種別	割合	備　　考
評価方法	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表（口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（１回～１５回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	発音(1)	口腔内を大きく開けて発音する事で共鳴ポジションを習得し、共鳴ポジションでのヴォイストレーニングを行う。
２回	発音(2)	口腔内を大きく開けて発音する事で共鳴ポジションを習得し、共鳴ポジションでのヴォイストレーニングを行う。
３回	チェストヴォイス(1)	喉の開閉で共鳴を理解して支えを作ることを習得する。
４回	チェストヴォイス(2)	喉の開閉で共鳴を理解して支えを作ることを習得する。
５回	ミックスヴォイス(1)	ハミングミックス、トゥワングを習得する。
６回	ミックスヴォイス(2)	ハミングミックス、トゥワングを習得する。
７回	リズムトレーニング(1)	メトロノームを使いトレーニングを行い、16ビートを習得する。
８回	リズムトレーニング(2)	メトロノームを使いトレーニングを行い、16ビートを習得する。
９回	ビブラート(1)	メトロノームを使い4ビート、8ビート、16ビートと正確に声帯を揺らすことを習得する。
１０回	ビブラート(2)	メトロノームを使い4ビート、8ビート、16ビートと正確に声帯を揺らすことを習得する。
１１回	フェイク(1)	簡単な音階で声帯に力を入れないようにして音階を早いスピードで上がったり下がったりする。その際正確に音階が出るように習得する。
１２回	フェイク(2)	簡単な音階で声帯に力を入れないようにして音階を早いスピードで上がったり下がったりする。その際正確に音階が出るように習得する。
１３回	成果発表	授業内で成果発表を行い、自身の課題を講評できる。
１４回	成果発表	授業内で成果発表を行い、自身の課題を講評できる。
１５回	まとめ	全体のまとめ